

第15回

今年も「善福寺川 水鳥一斉調査」を行いました!!

【水鳥一斉調査の目的】

現在の善福寺川の自然を知ること、区民の皆さんにもっと善福寺川に注目してもらうことを目的に、善福寺川でどんな水鳥が、どこで、どれくらい利用しているかを一斉に調べる、

「善福寺川 水鳥一斉調査」を実施しました。水鳥以外の鳥もあわせて調べました。

＜実施日＞ 令和5年1月14日(土)10:00~11:30、または13:00~14:30 (区民参加調査)
1月16日(月)10:00~12:00 (専門家調査)

【調査の方法】

区民の皆さんと善福寺川の自然を再確認する＜区民参加による水鳥調査＞と、善福寺川全域の水鳥の利用状況を把握する＜専門の調査員による水鳥調査＞を行いました。

＜調査ルート＞



＜区民参加による水鳥調査＞

善福寺公園コース（善福寺公園上の池、下の池）、善福寺川緑地コース（西田橋～尾崎橋）、和田堀公園コース（尾崎橋～和田堀池）において、善福寺川流域の小学校の児童とともに、鳥に詳しい先生の解説を受けながら、善福寺川を利用する鳥について観察し、種類や個体数を記録しました。



参加した小学生の皆さんとの調査風景

＜専門の調査員による水鳥調査＞

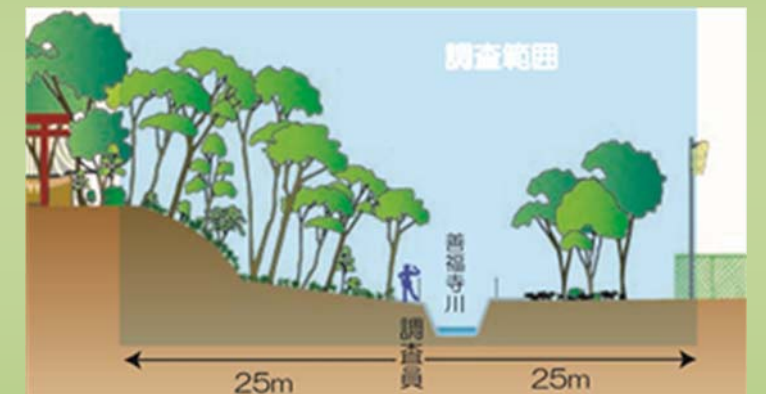
善福寺川を6区分し、それぞれの区間に約2kmの調査ルート（A～F）を設定、各ルートに出現する鳥類の確認を同時間一斉に実施しました。

調査は、一定の速度で2時間歩き、ルート上の幅50m（片側25m）の範囲に出現する鳥類の種類、個体数、諸行動について記録しました。

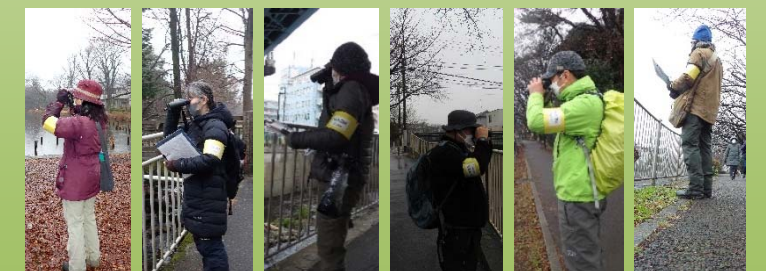
各ルートについて、Aルートは池の周辺に樹林や植栽帯、池内にヨシや低木が点在しています。B・Cルートは住宅地内、D・Eルートは緑地内をそれぞれ川が流れて、Fルートは住宅地からビル街にかけて川が流れています。



池があるAルート



善福寺川沿いに緑地が広がるD・E・Fルート



専門の調査員による調査風景

今年の水鳥調査参加小学校

◇参加小学生による調査記入シート

小学生による調査では、善福寺川で見られる鳥の絵が描かれた調査シートを用いて、今回見られた鳥の数を「正」の字を使って記入していきます。

学校名		お名前	
小学校			

区民参加による水鳥一斉調査 集計表 調査日：令和5年1月14日

鳥の名前	見た数の合計	鳥の名前	見た数の合計
アオサギ	正正正正正正正正正正	カイツブリ	正正正正正正正正正正
アオシ	正正正正正正正正正正	カルガモ	正正正正正正正正正正
アカハラ	正正正正正正正正正正	カワウ	正正正正正正正正正正
ウグイス	正正正正正正正正正正	カワセミ	正正正正正正正正正正
エナガ	正正正正正正正正正正	カワラヒワ	正正正正正正正正正正
オオタカ	正正正正正正正正正正	キジバト	正正正正正正正正正正
オオバン	正正正正正正正正正正	キセキレイ	正正正正正正正正正正
オカヨシガモ	正正正正正正正正正正	キンクロハシ	正正正正正正正正正正
オシドリ	正正正正正正正正正正	ゴイサギ	正正正正正正正正正正
オナガ	正正正正正正正正正正	コガモ	正正正正正正正正正正
オナガガモ	正正正正正正正正正正	コゲラ	正正正正正正正正正正
		コサギ	正正正正正正正正正正

◇今年の参加小学校

第15回を迎える今年は、小学校13校119名の生徒さんと、その保護者の方々106名の合計225名が参加しました。また、12名の解説員の先生に協力いただきました。

調査コース	参加小学校	参加人数	解説員
善福寺公園 (上の池・下の池)	井荻 桃井第一 桃井第二 桃井第三 桃井第四	小学生：38名 保護者：40名	谷口 高司 先生 谷口 律子 先生 西村 眞一 先生 安西 英明 先生
善福寺川緑地コース (尾崎橋～仲よし公園)	杉並第一 杉並第七 東田 西田	小学生：46名 保護者：36名	伊藤 晴康 先生 谷島 みどり 先生 石原 武 先生 井上 耀右 先生
和田堀公園コース (尾崎橋～和田堀池)	松ノ木 浜田山 大宮 済美	小学生：35名 保護者：30名	中里 昌樹 先生 渡辺 博重 先生 佐々木 幹夫 先生 真柳 元 先生
計	13校	小学生：119名 保護者：106名	

◇今年の参加小学校の位置図

今年も善福寺川流域の小学校（13校）に参加いただきました。



◇解説の状況



足元など色々なところも見てみよう。鳥の好きなアキニレの種が落ちています。

双眼鏡は、まず観察対象を肉眼で見て、そのまま双眼鏡を目にあてがうと良いです。



ありふれたヒヨドリも、見られるのは日本などに限られ、世界的に珍しい鳥なんです。



ハシブトガラスとハシボソガラスは、嘴の太さや頭の形、鳴き声などで見分けられます。



冬になると小鳥達は、様々な種類が集まって群れをつくって移動します。



餌を与えることは、野鳥の暮らしや生態系に悪い影響を与えてしまいます。

区民参加による水鳥調査の結果

◇調査結果(確認した鳥と数)

今年の調査では、カルガモが最も多く見られた「水鳥」でした。

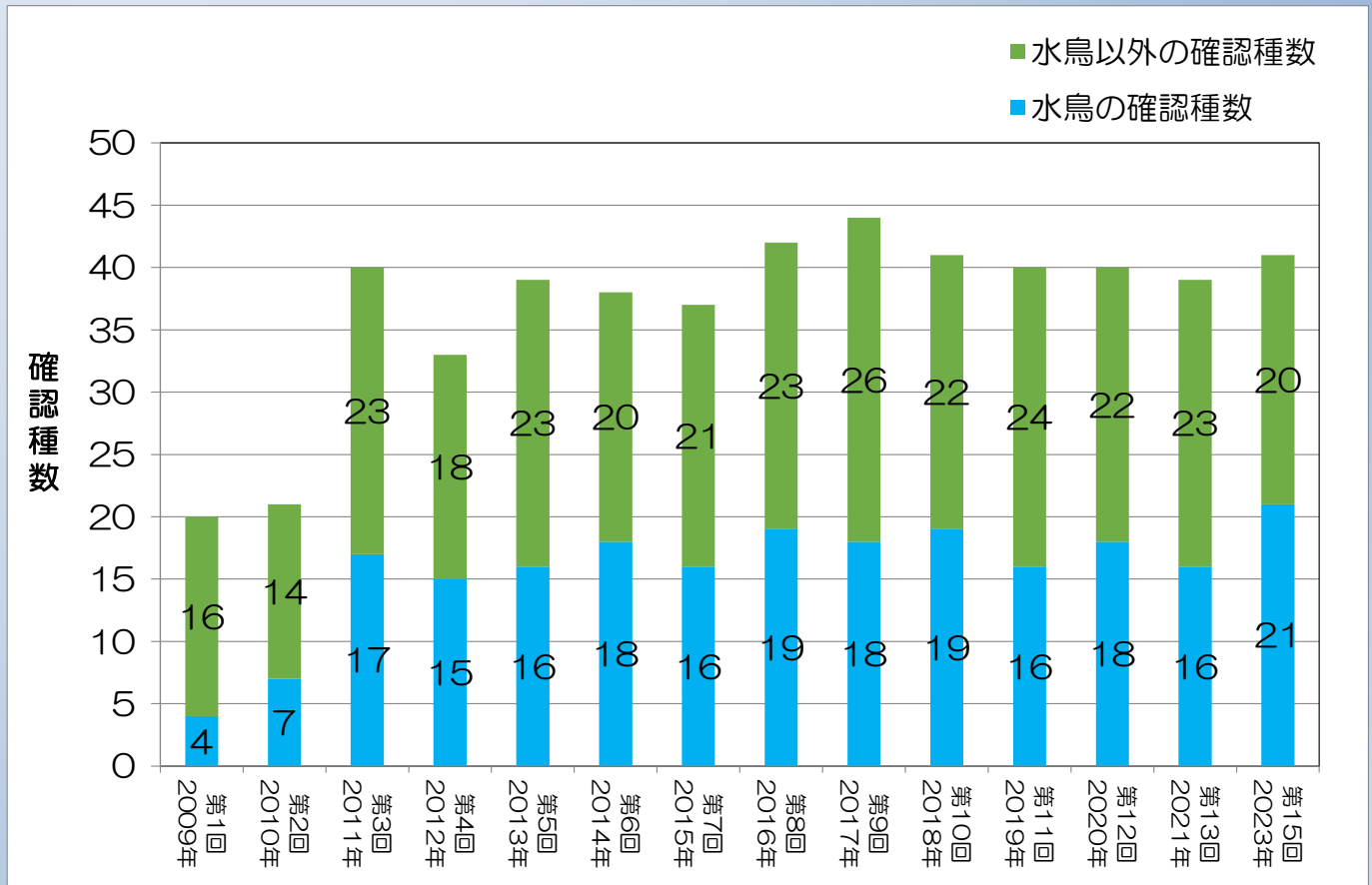
「水鳥以外」では、ヒヨドリ、キジバト、カワラヒワ、ムクドリなどが多くみられ、一部でアオゲラ、ウグイス、ツミも観察できました。

	善福寺公園コース	善福寺川緑地コース	和田堀公園コース
各コースで多く見られた上位3位の水鳥と確認数	 カルガモ (8~66羽)	 カルガモ (3~18羽)	 カルガモ (6~46羽)
	 カイツブリ (1~20羽)	 ハクセキレイ (1~9羽)	 ハクセキレイ (4~9羽)
	 キンクロハジロ (2~8羽)	 カイツブリ (4羽)	 コガモ (3~7羽)
その他水鳥	カワセミ (1~8) アオサギ (1~7) オナガガモ (1~7) ゴイサギ (1~7) ハクセキレイ (1~7) パン (2~5) マガモ (2~5) ヒドリガモ (1~5) ハシビロガモ (1~5) オオパン (1~4) カワウ (1~2) キセキレイ (1~2) コガモ (1~2) ダイサギ (2) ホシハジロ (2) オカヨシガモ (1)	カワセミ (1~4) キセキレイ (1~4) オナガガモ (2) キンクロハジロ (2) コガモ (1~2) コサギ (1) ダイサギ (1) マガモ (1)	オナガガモ (1~6) マガモ (1~6) キンクロハジロ (2) ゴイサギ (2) アオサギ (1) カワセミ (1)
種数計	19	11	9

どのコースでも「カワセミ」は観察されました

◇確認された鳥の種数の推移

今年は、これまでで最も多くの水鳥(21種)を観察することが出来ました。ただし、水鳥以外の鳥は、天気が悪かったこともあり、ここ数年間と比べると、少なかったです。



◇今年確認された主な水鳥たち



専門の調査員による水鳥調査の結果 1

善福寺川全体で 38 種類の鳥類（うち、水鳥は 18 種）を確認

- 最も多く見られた鳥は、
- 1位 ヒヨドリ
- 2位 カルガモ
- 3位 コガモ

- 最も多くの鳥が確認されたルートは、
- Eルート（尾崎橋～宮木橋）

- 最も多くの鳥の種類が確認されたルートは、
- Aルート（善福寺公園）



ヒヨドリ



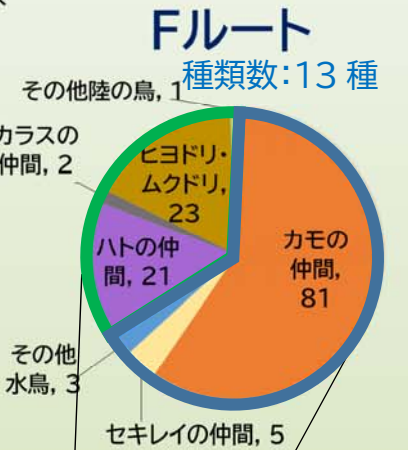
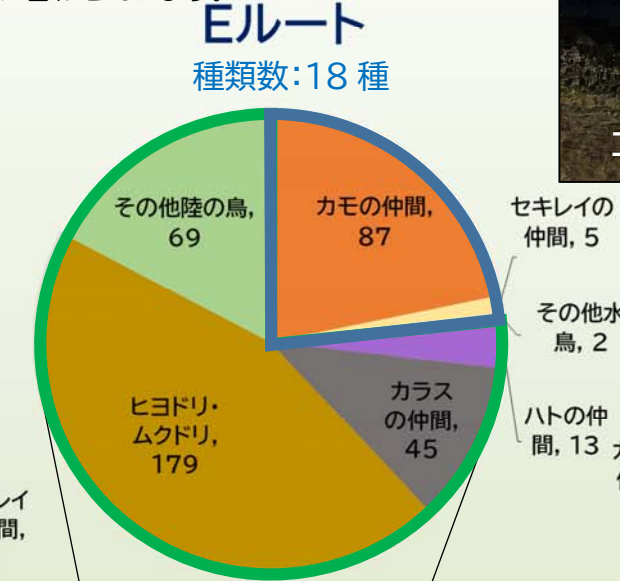
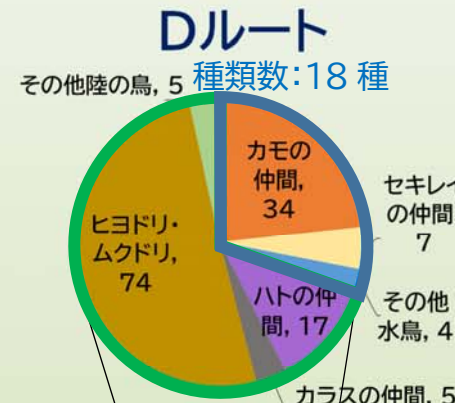
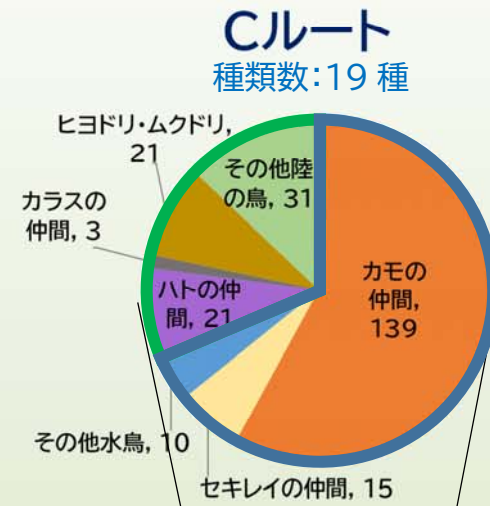
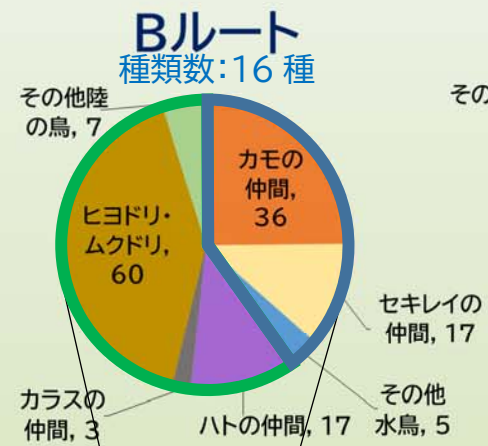
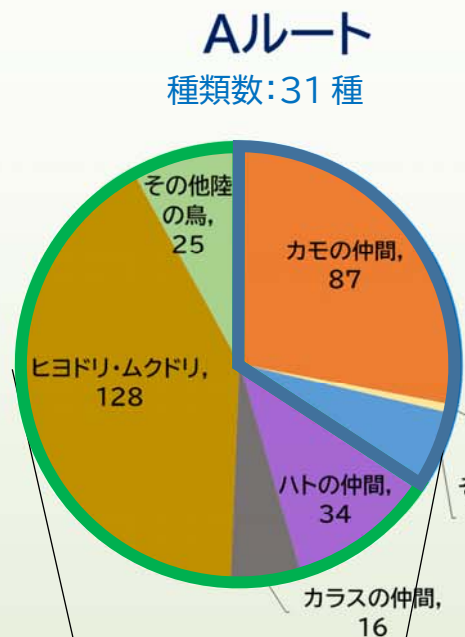
カルガモ



コガモ

注1) グラフの値は、種群ごとの合計個体数（羽）
 注2) 円グラフの大きさは、確認個体数の値の大きさに合わせています。

確認された鳥の種群ごとの合計個体数（羽）



専門の調査員による水鳥調査の結果 2

◇善福寺川における15年間(15回調査)の「水鳥」の確認状況



15回の調査で
確認された回数

Aルート

Bルート

Cルート

Dルート

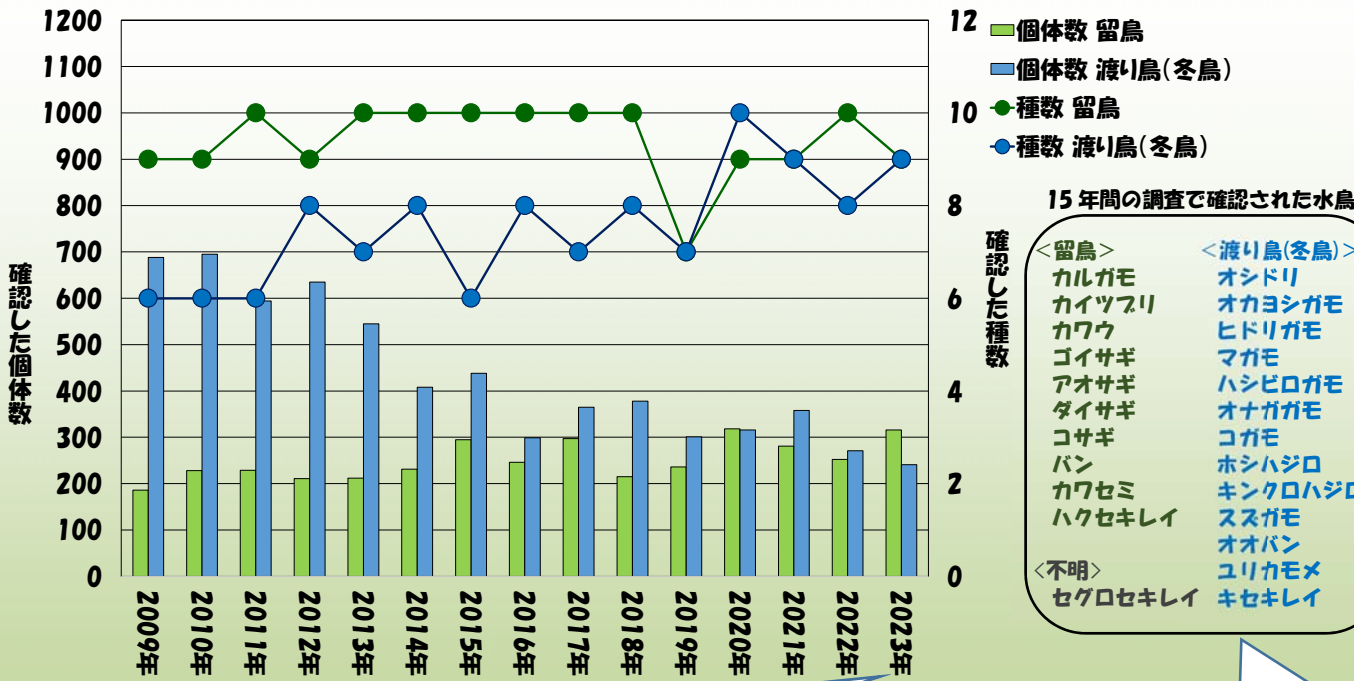
Eルート

Fルート

15回の調査で 確認された回数	Aルート	Bルート	Cルート	Dルート	Eルート	Fルート
11~15回 ほぼ毎回観察 される水鳥						
6~10回						
3~5回						
1~2回 観察は 稀な水鳥						
確認された種類数	20種類	16種類	20種類	11種類	14種類	11種類

専門の調査員による調査結果 3 (15年間の調査のまとめ)

◇水鳥における渡り鳥と留鳥の確認状況の変化



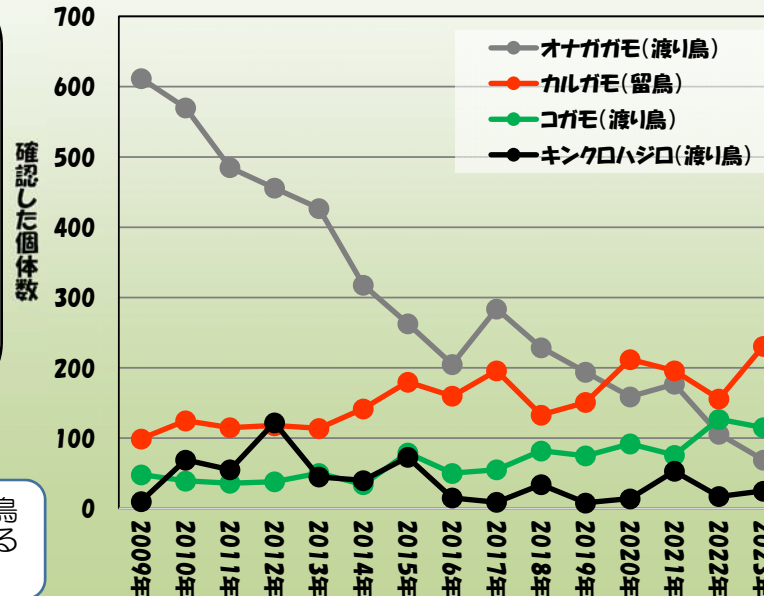
冬の時期にみられる善福寺川の水鳥は、これまで渡り鳥の個体数が多かったのですが、徐々に渡り鳥が減少し、留鳥は少しずつ増えていきました。そして今年は初めて逆転しました。

鳥は、一年中その場にいる留鳥と定期的に長い距離を移動する渡り鳥に分けられます。

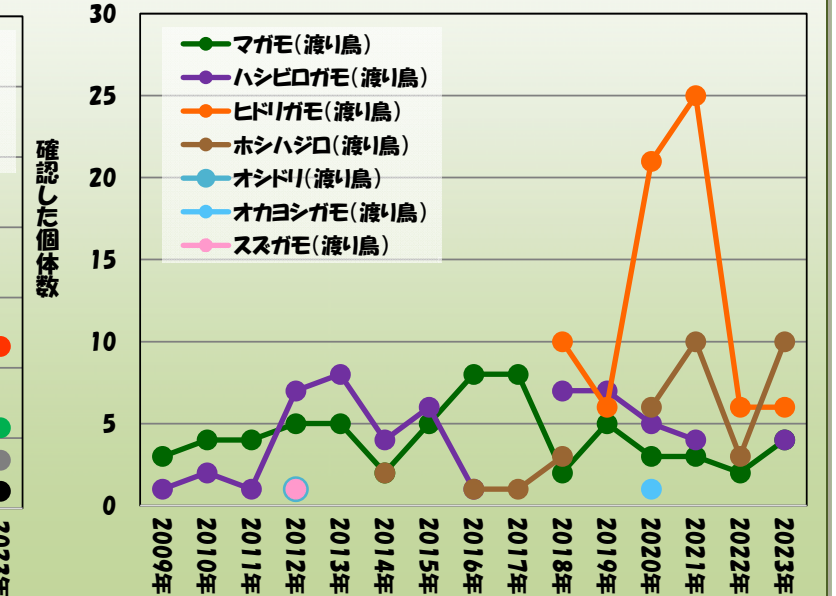
渡り鳥の数の減少は、15年前頃は数多く見られたオナガガモが、大幅に数を減らしていることが要因です。キンクロハジロも同様に減っています。一方で留鳥のカルガモが少しずつ数を増やしていることも影響しています。

渡り鳥の数の推移は気候変動や繁殖地の環境変化などが考えられます。一方、オナガガモなどは、かつて多く見られた餌やりが、少なくなったことが原因と言われています。生きものとの望ましい関わり方の理解が進んだものとも考えられます。

主なカモ類の確認個体数の推移



その他のカモ類の確認個体数の推移



◇善福寺川と杉並区全域の確認種の比較

15回の調査で、善福寺川では約50種類もの鳥を確認することが出来ました。

このうち、水鳥は24種類(雑種等を除く)で、杉並区全域で確認されている水鳥(25種類)のほとんどを確認できることがわかりました。

水鳥以外の鳥についても、杉並区全域で観察される鳥の種類の半分以上を観察できることがわかりました。

分類	目	科	種名	渡り区分	善福寺川	杉並区全域※1
水鳥	カモ	カモ	オシドリ	冬鳥	●	●
			オカヨシガモ	冬鳥	●	●
			ヒドリガモ	冬鳥	●	●
			マガモ	冬鳥	●	●
			カルガモ	留鳥	●	●
			ハシビロガモ	冬鳥	●	●
			オナガガモ	冬鳥	●	●
			コガモ	冬鳥	●	●
			ホシハジロ	冬鳥	●	●
			キンクロハジロ	冬鳥	●	●
			スズガモ	冬鳥	●	●
			マガモ×カルガモ	不明	●	●
	カルガモ×オナガガモ	不明	●	●		
	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥	●	●
	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	●	●
	ペリカン	サギ	ゴイサギ	留鳥	●	●
			アオサギ	留鳥	●	●
			ダイサギ	留鳥	●	●
			チュウサギ	留鳥	●	●
			コサギ	留鳥	●	●
			バン	留鳥	●	●
	ツル	クイナ	オオバン	留鳥	●	●
			チドリ	留鳥	●	●
	チドリ	シギ	コサギ	留鳥	●	●
イソシギ			留鳥	●	●	
フッコウソウ	カワセミ	カワセミ	留鳥	●	●	
スズメ	セキレイ	キセキレイ	留鳥	●	●	
		ハクセキレイ	留鳥	●	●	
		セグロセキレイ	不明	●	●	
計(雑種は除く)					24	25

分類	目	科	種名	渡り区分	善福寺川	杉並区全域※1
水鳥以外の鳥	ハト	ハト	キジバト	留鳥	●	●
			ツツドリ	留鳥	●	●
	カモ	カモ	カワウ	留鳥	●	●
			アマガモ	留鳥	●	●
	タカ	タカ	トビ	不明	●	●
			ツミ	不明	●	●
	キツツキ	キツツキ	アオガラ	留鳥	●	●
			コガラ	留鳥	●	●
	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	不明	●	●
			サンコウチョウ	不明	●	●
	モズ	モズ	カケス	不明	●	●
			オナガ	不明	●	●
	カラス	カラス	ハシボソガラス	留鳥	●	●
			ハシブトガラス	留鳥	●	●
	シジュウカラ	シジュウカラ	ヤマガラ	留鳥	●	●
			ヒガラ	留鳥	●	●
	ツバメ	ツバメ	ツバメ	留鳥	●	●
			ヒヨドリ	留鳥	●	●
	ウグイス	ウグイス	ウグイス	留鳥	●	●
			エナガ	留鳥	●	●
	ムシクイ	ムシクイ	メボソムシクイ	留鳥	●	●
			エゾムシクイ	留鳥	●	●
	メジロ	メジロ	メジロ	留鳥	●	●
			ヨシキリ	留鳥	●	●
ムクドリ	ムクドリ	ムクドリ	留鳥	●	●	
		シロハラ	留鳥	●	●	
ヒタキ	ヒタキ	アカハラ	留鳥	●	●	
		ツグミ	留鳥	●	●	
スズメ	スズメ	ルリビタキ	留鳥	●	●	
		ジョウビタキ	留鳥	●	●	
セキレイ	セキレイ	エゾビタキ	留鳥	●	●	
		コササビ	留鳥	●	●	
アトリ	アトリ	キビタキ	留鳥	●	●	
		オオルリ	留鳥	●	●	
ホオジロ	ホオジロ	スズメ	留鳥	●	●	
		ビンズイ	留鳥	●	●	
キジ	キジ	アトリ	留鳥	●	●	
		カワラヒワ	留鳥	●	●	
ハト	ハト	シメ	留鳥	●	●	
		ホオジロ	留鳥	●	●	
インコ	インコ	ホオジロ	留鳥	●	●	
		カンザダカ	留鳥	●	●	
スズメ	スズメ	アオジ	留鳥	●	●	
		コジュケイ	留鳥	●	●	
セグロセキレイ	セグロセキレイ	カワラバト(ドバト)	留鳥	●	●	
		ホンセイインコ	留鳥	●	●	
セグロセキレイ	セグロセキレイ	ガビチョウ	不明	●	●	
		ガビチョウ	不明	●	●	
計(雑種は除く)					28	52

※1「杉並区自然環境調査報告書(第7次)」調査は1985~2018年の間に10回実施。旅鳥は除く。

◇これまでの調査で確認された注目すべき種類

国や都のレッドデータブックに掲載されている種類をみると、21種類が該当しました。これらは、善福寺公園のあるAルートで最も多く、次いでCルートとEルートで多く確認しています。

目名	科名	種名	国RD※1	東京都RD※2	これまでの調査で確認された場所						
					Aルート	Bルート	Cルート	Dルート	Eルート	Fルート	
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ		NT	●						
コウノトリ	サギ	ゴイサギ		VU	●		●				
		ダイサギ		NT		●			●		
		チュウサギ		NT		●				●	
カモ	カモ	コサギ		VU	●			●			
		オシドリ		DD	●						
		ホシハジロ		VU	●						
		スズガモ		*		●					
タカ	タカ	トビ		NT	●						
		オオタカ		EN	●				●		
		ツミ		EN	●					●	
ツル	クイナ	フスリ		CR							
		バン		EN	●					●	
フッコウソウ	カワセミ	カワセミ		VU	●						
キツツキ	キツツキ	アオガラ		EN	●						
		セキレイ		VU	●						
スズメ	セキレイ	モズ		CR	●						
		シジュウカラ		VU	●						
		ウソ		NT	●						
カラス	カラス	アトリ		NT	●						
		オナガ		NT	●						
種数の合計					14	8	11	6	9	5	

※1 レッドデータブック(環境省2020)
 NT: 準絶滅危惧
 EN: 絶滅危惧ⅠB類
 VU: 絶滅危惧Ⅱ類
 CR: 準絶滅危惧
 DD: 情報不足
 *: 留鳥種

